

安全管理に関する アンケート調査報告より

The 6th
Questionnaire Report of Safety Control
in Nuclear Medicine

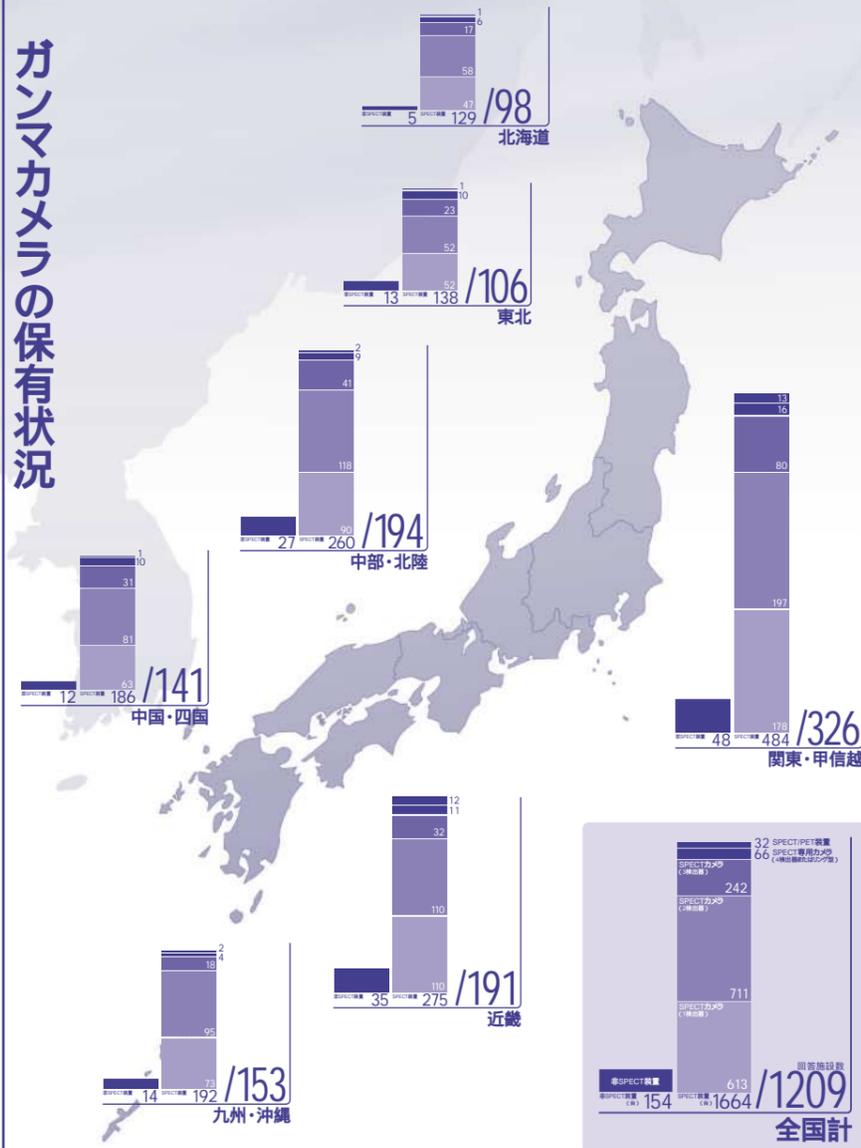
日本アイソトープ協会医学・薬学部会核医学イメージング・検査技術専門委員会では、核医学検査時の事故発生の実態を把握し、安全を確保することにより被検者が安心できる検査を提供することを目的として、1986年に第1回調査を行って以来3年ごとにアンケートを実施しています。2001年に実施した第6回調査(対象期間:1998年4月1日～2001年3月31日)の報告書の概要を紹介します。

核医学の安全管理に関するアンケート

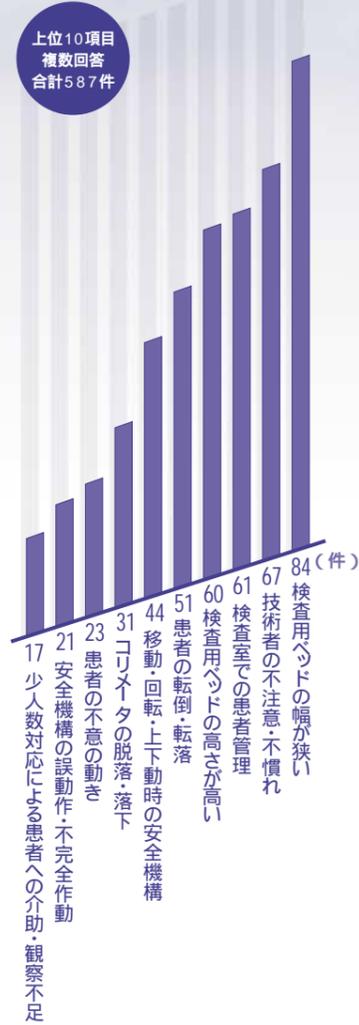
おもな質問事項

- ・核医学検査従事者に関すること(資格、性別、年齢、経験年数、作業内容、業務形態)
- ・核医学機器の保有状況(種類および台数)
- ・核医学検査室内での事故等(患者さんや従事者が怪我をしそうになった事例、実際に怪我等に至った事例)
- ・核医学機器を使用していて、“人身事故につながる”と懸念される危険性
- ・核医学検査を行う際の安全管理に関する改善措置
- ・核医学機器の故障・破損
- ・メーカーに対する要望・意見

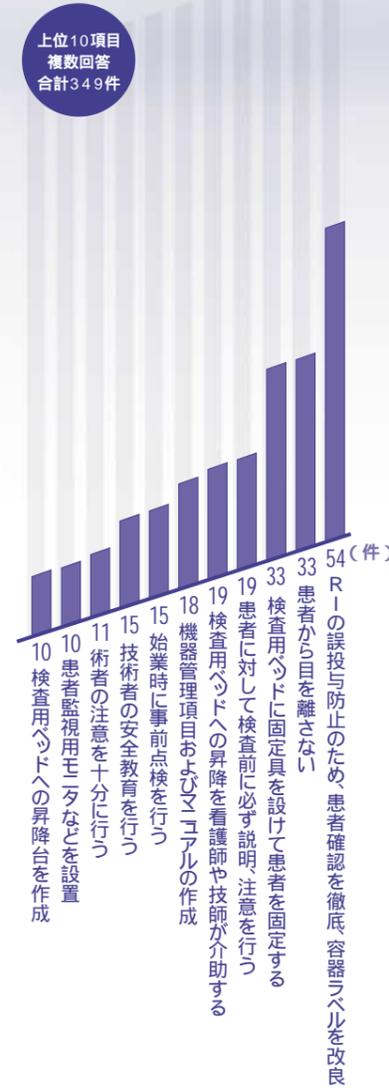
ガンマカメラの保有状況



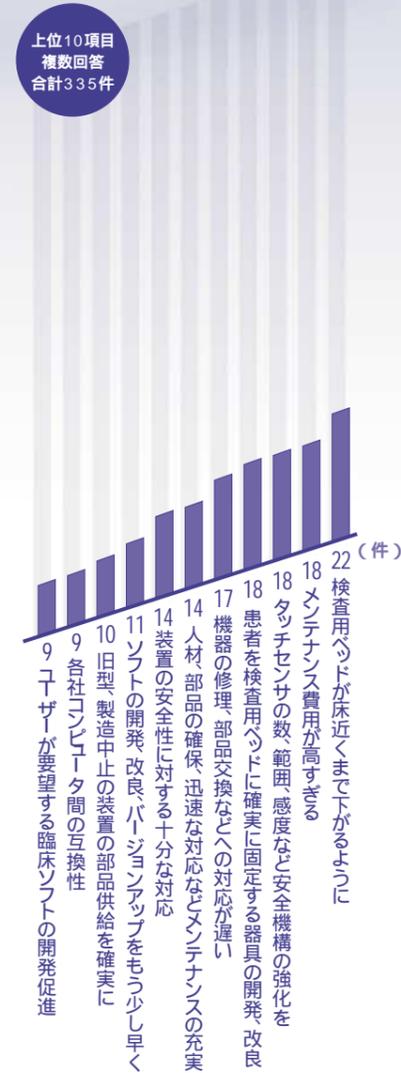
核医学技術者の不安



安全管理に関する改善措置



メーカーへの要望



まとめ (報告書より抜粋)

- 1 アンケートの回収率は86.2%(調査対象1,254施設中、1,081施設より回答)。追加調査によりアンガーカメラに関する調査の回収率は99.8%であった。
- 2 従事者の調査項目に医師および薬剤師を加えた。
- 3 保有資格別による核医学検査従事者数は診療放射線技師が増加し、臨床・衛生検査技師、その他の資格保有者、資格なしは減少した。医師は相当数であったが、薬剤師はごく少数であった。
- 4 RIインビトロ検査は前回調査より、さらに減少した。
- 5 2検出器型SPECTカメラおよび3検出器型SPECTカメラが増加した。特に2検出器型SPECTカメラの増加が著しい。同時計数対応型ガンマカメラによるSPECT/PET装置も倍増した。
- 6 核医学画像機器の保守点検率は約80%であったが、使用年数の短い新しい機種が高い。
- 7 核医学検査時の事故および事故未然是例は過去調査では漸減傾向にあったが、今回調査では増加した。死亡事故のような重大事故は発生していない。
- 8 事故未然是例のなかに重大事故につながる事例が内在していた。
- 9 操作の自動化や安全センサーなどの機構の確実性と誤動作の一層の改善が必要である。
- 10 核医学検査従事者の事故防止に対する意識が必要である。
- 11 メーカーへの要望は多岐にわたっているが、装置の安全機構、ソフトウェアの開発・改良およびメンテナンスへの十分に迅速な対応を希望する意見が多かった。

第5回全国核医学診療実態調査中間報告

in vivo項目別検査状況

- 2002年中間報告のインビボ検査件数は、対象となる検査の内、主要な検査項目のみの数値です。即ち、アンケートの検査項目中の付随する検査項目である(内...あり)の件数は含まれておりません。
- 参考値は2002年中間報告の検査件数に、第4回と同様に付随する検査項目である内数を加算した数値です。
- 甲状腺シンチグラフィの検査件数には、甲状腺摂取率の検査件数を含んでいます。

